薬草園をめぐる　⑥

白　瀧　義　明
（城西大学薬学部）

エゴノキ *Styrax japonica* Sieb. et Zucc.
（エゴノキ科 Styracaceae）

5～6 月の晴れた日，風光明媚な高麗川沿いに薬草園から城西の丘を散歩すると木々の間から梅に似た白い五弁の花がびっしり顔をのぞかせているのをよく見かけます。これがエゴノキです。果実はサポニンを多く含み，とても薮い（えぐい）のでこの名がつきました。サポニンというと去痰，魚毒，溶血作用が頭に浮かびます。そのとおり果実は民間で去痰薬として使用されていましたが，用量がハッキリしないのでお勧めできません。かつて新鮮な果実は泡立ちが良いので，洗濯の折，石鹸の代用に使われたり，川遊びの時など，悪餓鬼が川に流して魚を獲るのに使ったりしたものです。これは果実に含まれるエゴサポニンが魚のえら呼吸を止め呼吸麻痺になるのを利用したものです。若い葉の裏側や枝には星の形をした淡褐色の星状毛がたくさんありますので時間に余裕があれば，是非，観察してみてください。また，時々，枝先に緑白色のハスの花みたいなものが付いているのを見かけますが，これはエゴノネコアシアブラムシの幼虫が冬芽に寄生してできた虫えいでエゴノネコアシとよばれるものです。なるほど，猫の足に似てますね。

その他，日本にはエゴノキの仲間としてハクウンボク（白雲木）という高さ 10 メートル以上にもなる落葉高木も自生しています。こちらは下垂する総状花序に約 20 個もの芳香を放つ白い花を付けるので茶花として人気があります。エゴノキの材は黄白色で緻密で粘り気が強く，工作しやすいのでろくろを使ってお椀を作ったり，こけし，将棋の駒などの細工物や彫刻材，建築材などに用いられています。そのため，別名をロクロギなどともよばれています。

局方収載の医薬品アンソッコウ（安息香）は東南アジアに分布するエゴノキと同じ仲間のアンソッコウノキ（*Styrax benzoin*）から得られ，その名の示すとおり，主成分として安息香酸を多く

エゴノキ（花）

エゴノキ（果実）

エゴノキ（エゴノネコアシ）

含み，防腐剤，刺激剤，薫香料として用いられています。アンソッコウにはスマトラ安息香（インドネシア産）とシャム安息香（タイ，ラオス産）の２種類があり，シャム安息香のほうが品質が良く値段も高いそうです。東南アジアへご旅行の際，何かのお役に立つかも知れません。